

宮崎県観光振興計画（令和 9～12 年度）
改定スケジュール（案）

令和 7 年度

3 月	<p>◆令和 7 年度 第 2 回宮崎県観光審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画改定に係る諮問 ・本県観光の現状と今後の方向性について
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和 8 年度

- 4 月 ◆委員改選
- 6 月 ●県議会商工建設常任委員会への報告（改定について）

7 月	<p>◆令和 8 年度 第 1 回宮崎県観光審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県観光振興計画の進捗状況 ・令和 7 年度取組実績及び令和 8 年度取組
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- 7～8 月 ○市町村、観光関係団体等との意見交換会
- 7～10 月 ○計画骨子案の検討

10 月	<p>◆令和 8 年度 第 2 回宮崎県観光審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画骨子案について
------	--------------------------------------------------------------------------------------------

- 11 月 ●県議会商工建設常任委員会への報告（骨子案）
- 11 月～ ○計画素案の検討

2 月	<p>◆令和 8 年度 第 3 回宮崎県観光審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画素案について
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------

- 3 月 ●県議会商工建設常任委員会への報告（素案）
- パブリックコメントの実施

令和 9 年度

- 4 月 ○最終案の検討

5 月	<p>◆令和 9 年度 第 1 回宮崎県観光審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの結果について ・最終案について
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

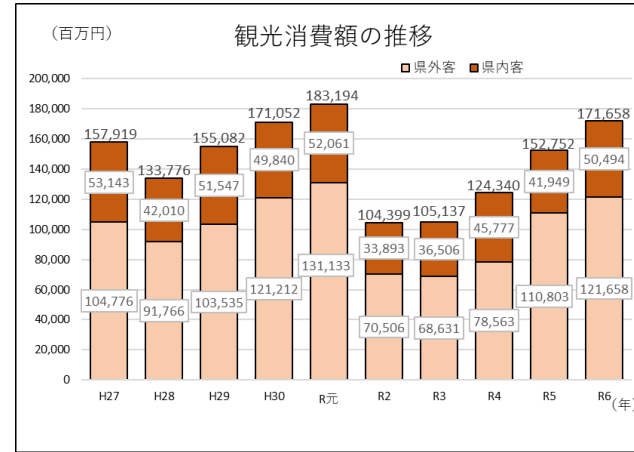
- 6 月 ●県議会への議案提出

プロジェクト 1 国内外から選ばれる観光地域づくり

<現行計画での主な取組>

- 市町村や観光関連事業者等と連携した観光資源の磨き上げ
- DX設備の導入やサービス向上など、宿泊施設の受入環境整備支援
- 地域の観光を牽引する人材の育成
- 観光産業の人材確保の支援
- 観光関連施設のユニバーサルデザイン化、ユニバーサルツーリズムセンターの設置
- 二次交通の充実

<現状>



- 本県の観光消費額は、コロナ禍の落ち込みから徐々に回復はしてきているが、コロナ禍前の水準には戻っていない。
- 全国的には訪日外国人が過去最高を更新し、1旅行当たり100万円以上を消費する高付加価値旅行者も増加している。
- 観光産業の人手不足は深刻で、県のアンケート調査によると、サービスの一部を制限している宿泊事業者も多数あるところ。

<課題>

- 通過型観光からの転換を図るため、観光資源の磨き上げや魅力的なコンテンツの造成を行うとともに、観光サービスの高付加価値化や効果的なマーケティングなどにより観光消費額を高めるなどの、持続可能な観光地域づくりの取組が必要である。
- 観光客の利便性や満足度向上による安定的な観光客の確保に繋げるため、観光人材の育成や人手不足への対応や多様なニーズに対応した宿泊施設の整備や移動環境の充実などの受入環境整備の取組が必要である。

主な今後の方向性

① 持続可能な観光地域づくりの推進

- 本県の強みを生かした高付加価値な旅行商品の開発、販売体制の構築
- 高付加価値旅行者を取り込むための宿泊施設誘致調査
- DMO（観光地域づくり法人）による県全体の観光地経営、マーケティングや広域的コンテンツ開発

② 受入環境整備の推進

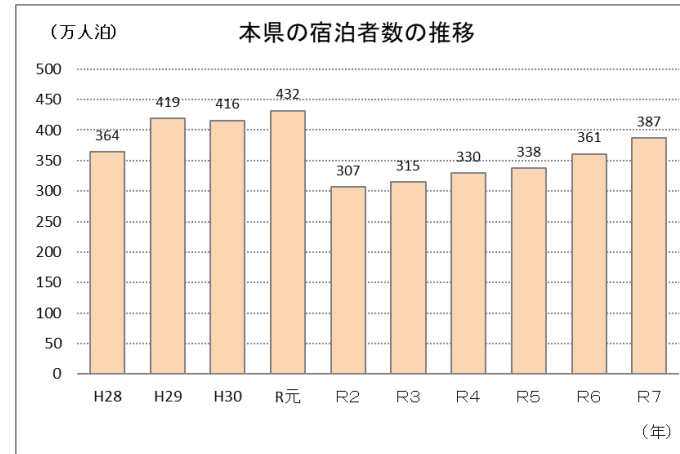
- 宿泊施設の魅力向上や、DX設備の導入等による省力化・効率化による生産性の向上
- 地域の観光を牽引する人材や観光ガイド育成、ネットワーク構築
- 観光産業の人手不足対策 ○九州Maasの利用促進
- ユニバーサルツーリズムの推進
- 新設スポーツ施設周辺の宿泊施設整備

プロジェクト2 みやざきの強みを生かした誘客の促進

<現行計画での主な取組>

- 本県ならではのテーマ観光の推進
「キキタビ」、「デトックス・トリップ宮崎」
「インフラツーリズム」等の展開
- 県公式観光サイト等を活用した情報発信強化
- 「推し活」をフックとした周遊企画や動画
配信等のプロモーション
- 観光関連事業者等と連携したプロモーション
やセールス
- 隣県や市町村など広域連携による周遊ルート
づくりや共同プロモーション
- MICEの受入れ推進

<現状>



- 本県の延べ宿泊者数は、回復傾向にあるものの、令和7年（速報値）は令和元年の約9割の水準に留まっている。
- 観光入込客についても着実な回復傾向にあるが、依然として日帰り客の割合が約7～8割と高水準で推移している。
- 令和6年度のMICEの開催件数は133件、延べ参加者数は78,320人で、令和元年比で見ると5割程度。
- 都道府県魅力度ランキング（地域ブランド調査）によると、本県の認知度は下位である。（2025年：43位）

<課題>

- 本県観光の約6割を占める九州圏からの誘客をさらに強化するとともに、関東・関西圏など、より市場規模の大きい九州外からの需要を取り込む必要がある。
- 通過型観光から、1人あたりの観光消費額を高める周遊・滞在観光に繋がる誘客事業を展開していく必要がある。
- 積極的かつ効果的な情報発信により旅行目的地としての本県の認知度を高めるとともに、来県に繋げる必要がある。

主な今後の方向性

① 九州内外からの誘客促進

- 本県の強みである「5つのS」（神話や自然・森林、食、スポーツ）を生かした観光プロモーションを展開
- ターゲット属性に合わせた情報発信の強化
- MICEの受入れ推進

② 「日本のひなた宮崎県」の認知度向上

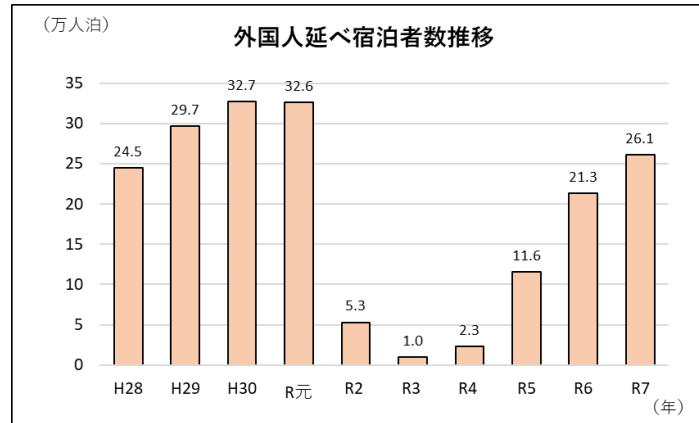
- ターゲットに響く効果的な情報発信と来県意欲の喚起
- 「推し活」をはじめとする誘客力の高い企画の実施

プロジェクト3 外国人観光客の誘致の強化・推進

<現行計画での主な取組>

- 多言語ホームページや海外向けSNS、海外OTAを活用した情報発信
- 旅行博への出展や旅行会社・インフルエンサー等の招へい
- 国際定期便等を活用した旅行商品造成の支援
- アドベンチャーツーリズムの商品造成・販売促進
- クルーズ船商談会等への出店、キーパーソン招聘
- 油津港におけるファーストポート受入体制の確保

<現状>



- 本県の外国人延べ宿泊者数は、令和7年(速報値)は令和元年の約8割まで回復している。
東アジアに加え、多様な国・地域からのインバウンド需要を更に取り込んでいくことが求められる。
- 県内における海外クルーズ船の寄港回数は、令和6年：14回、7年：17回、8年：22回(予定)と堅調に推移。

<課題>

- 外国人観光客の誘客に当たっては、直行便(ソウル線及び台北線)の維持・充実にに向けた誘客拡大に取り組むとともに、福岡空港等での国際線定期便が増加していることを踏まえ、他県空港からの周遊促進を図る必要がある。
- 個人旅行者が増加する現状を踏まえ、個人観光客(FIT)向けの取組(情報発信、二次交通対策等)を強化する必要がある。
また、訪日リピーターや欧米等からの旅行者が増えており、本県はそのアクセス性から「ついで観光」が難しいことを踏まえると、旅の目的地となるためのコンテンツ強化が必要である。
- 海外クルーズ船が寄港する港湾数が全国において増加したことによる他港との差別化が必要である。

主な今後の方向性

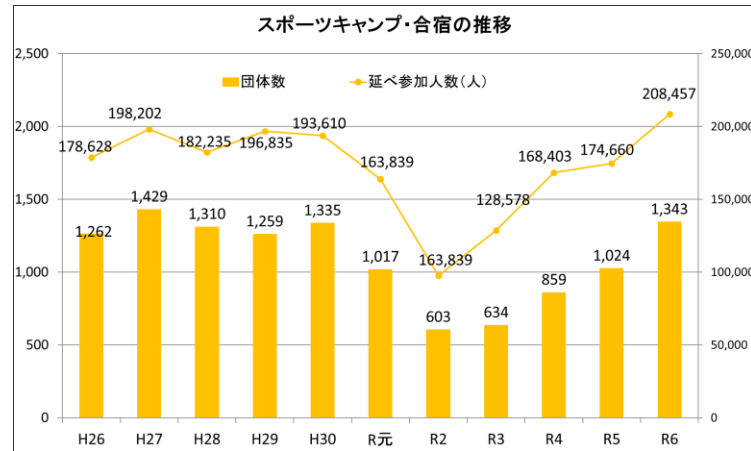
- 国際線定期便の維持・充実にに向けた誘客、他県空港からの周遊促進：ソウル線・台北線の夏場の誘客対策を強化
- 増加する個人観光客向けのプロモーション：SNSや海外OTA、現地メディアを活用した情報発信
- 本県の強みを生かしたインバウンド向けコンテンツの強化：自然、歴史、文化、食、スポーツ等コンテンツの充実、販売促進
- 県内周遊を促進する二次交通対策、高付加価値型宿泊施設の誘致調査：交通結節点と観光地を結ぶバスの運行や公共交通の接続対策等
- クルーズ船の誘致拡大：大型クルーズ船に限らないターゲットに応じたセールス、本県ならではの寄港地観光メニューの開発

プロジェクト4 「スポーツランドみやざき」の推進

<現行計画での主な取組>

- 国内外代表チームやプロチームのキャンプ・合宿受入れ
- キャンプ・大会等の誘致を目的とした競技別誘致部会の設置
- 県総合運動公園や屋外型トレーニングセンターの機能強化（R7年度）
- 木崎浜海岸のサーフィン環境整備（R7年度～）
- 市町村の受入施設や宿泊施設の整備促進
- アマチュアスポーツ合宿への支援
- キャンプ地のPRと合わせた観光地への誘導
- 武道ツーリズムによるインバウンド観光のコンテンツ作成
- メディア等と連携した情報発信の強化

<現状>



- 「日本一挑戦プロジェクト」の一つとして、「スポーツ観光プロジェクト」を掲げ、取組を展開。
- 令和6年度に県外からのキャンプ・合宿延べ参加者数が初めて20万人を超え、過去最高を更新するなど、着実な成果につながっている。

<課題>

- 令和9年度に開催される国スポ・障スポ大会を契機として、国スポ新施設等を有効に活用した大規模大会や合宿誘致を強化するなど、スポーツを核とした更なる地域経済の活性化が求められる。
- 経済効果を全県に波及させるために、市町村の受入施設・設備の充実やスポーツキャンプ・合宿に利用される宿泊施設の県内全域での確保が必要である。

主な今後の方向性

「スポーツの成長産業化」

- 誘致強化：国際大会・大規模大会、キャンプ・合宿等の通年・全県開催、県内を本拠地とするプロチームの支援、誘致強化
- 継続定着：国際大会等の継続開催（聖地化）、キャンプ等の定着（ブランド化）
- 投資促進：大型イベントの誘致、宿泊施設の立地促進などによる民間投資の促進、スポーツを核としたビジネスの創出
- 基盤強化：スポーツランドみやざきを支える推進体制の強化、人材の確保・育成

令和8年度の観光分野の主な事業など

資料3

宮崎県観光振興計画（R4～8年度）

本県の現状及び課題

本県観光の目指す姿

魅力実感！感動と元気あふれる「観光みやざき」
～ Challenge みやざき、新しい景色へ～

取り組むプロジェクト

① 国内外から選ばれる観光地域づくり

観光資源の磨き上げ、観光人材育成、受入環境整備等による魅力ある観光地域づくりの推進

③ 外国人観光客の誘致の強化・推進

重点地域である東アジア、欧米豪や富裕層などのニーズに対応した誘客の促進

② みやざきの強みを生かした誘客の促進

食、神話、スポーツ、自然、森林の5Sを生かしたテーマ観光の推進や観光事業者等と連携した効果的なプロモーションの促進

④ 「スポーツランドみやざき」の推進

国際水準のスポーツの聖地としてのブランド力の向上やスポーツキャンプなどの全県化、通年化

① 本県の令和7年延べ宿泊者数は、コロナ禍前の約9割の水準となっており、宿泊を伴う周遊・滞在型観光の回復が課題。また、人手不足や様々なニーズに対応した受入環境整備が求められている。

② 県外客の約6割が九州内からであり、九州内のリピーターの確保や市場規模の大きい関東・関西圏の需要の取り込み、また、更なる誘客を図るため、更なる認知度向上が求められている

③ 外国人延べ宿泊者は、コロナ禍前の約8割の水準となっており、全国的には過去最高を記録するインバウンドや高付加価値旅行者の本県への取り込みが求められている。

④ 県外からのスポーツキャンプ参加者は過去最高となっている。今後は、更なる「全県化」、「通年化」の取組に加え、国スポ・障スポに向けて整備されたスポーツ施設を活用した更なる誘致やスポーツを核とした地域経済の活性化が求められている。

令和8年度の主な取組

No	プロジェクト	事業名	予算額（千円）	概要
1	国内外から選ばれる観光地域づくり	持続可能な観光地域づくり推進事業	29,313	都道府県DMOが行う観光地経営や観光人材育成の取組、市町村や観光関連団体などが行う県内の周遊観光に繋がる取組を支援する。
2		新 高付加価値型宿泊施設誘致調査事業	9,988	高付加価値型宿泊施設誘致の可能性がある土地情報などを収集するとともに、開発事業者等へのヒアリングを行い、誘致の実現性を測る。
3		新 国スポ・障スポに向けたユニバーサルツーリズム受入環境整備事業	52,834	令和9年度開催の「日本のひなた国スポ・障スポ」参加者等を受け入れる宿泊施設のユニバーサルデザイン化の改修等に対する支援を行う。
4	みやざきの強みを生かした誘客の促進	宮崎の強みを生かした誘客事業	76,000	本県の強みである神話や自然、食、スポーツなどの観光資源を活用した誘客対策や、観光関連産業と連携したプロモーションにより、観光需要を喚起する。
5		新 国スポ・障スポを契機とした観光周遊促進事業	6,180	県内観光地や飲食店等を周遊するクーポンキャンペーンを実施するとともに、みやざき観光ナビを活用し、国スポ・障スポ関連イベントの情報発信等を行う。
6		改 ナッシーを活かした誘客事業	22,823	企業とのタイアップによるポケモンイベントの実施や、ポケモン社のコンテンツを活用した文化・スポーツイベントなどの誘致に取り組む。
7		M I C E強化事業	37,062	食や自然、ゴルフ環境等のアフターM I C Eの素材を活用し、県内へのM I C E誘致を推進する。
8	外国人観光客の誘致の強化・推進	外国人観光客誘致促進事業	162,560	国際定期便の維持充実に向けた誘客対策や、海外クルーズ船の誘致等を実施する。
9		改 インバウンド消費拡大・F I T誘客強化事業	85,250	高付加価値・着地型旅行商品の造成、販売促進の取組に加え、外国人個人観光客（F I T）向け情報発信等を実施する。
10		新 インバウンド周遊促進二次交通対策事業	35,600	外国人個人観光客向け二次交通対策、人流データ分析を踏まえた交通結節点と主要観光地等の接続実証を行う。
11	「スポーツランドみやざき」の推進	スポーツランドみやざきキャンプ受入等推進事業	23,377	スポーツキャンプ・合宿等の歓迎事業や誘致セールスなどを行い、スポーツランドみやざきのブランド力向上を図る。
12		改 大規模キャンプ・スポーツ大会等開催支援事業	78,000	現在実施されているスポーツキャンプなどの支援に加え、新たなキャンプ、大会等の誘致を行う。
13		改 市町村スポーツ施設等整備強化事業	126,330	市町村が受け入れるスポーツ合宿や大会のため環境整備を支援する。
14		新 地元プロスポーツチーム等応援事業	3,000	地元プロスポーツチームの観戦支援等により、スポーツによる地域活性化を図る。
15		ツール・ド・九州開催事業	164,563	2026大会について、大会開催支援、周知広報等を実施する。
16		新 宿泊施設立地促進等支援事業	100,000	プロスポーツキャンプや国際スポーツ大会等の誘致のため、国スポ施設周辺への宿泊施設立地等に対し支援する。

現行計画での主な取組実績

プロジェクト 1 : みやぎの強みを生かした誘客の促進

(1) 周遊・滞在型観光の推進のための観光資源の磨き上げ

- 各市町村や観光関連団体が取り組む観光資源の磨き上げ等の支援
 < R 5 ~ R 7 補助実績 4 1 件 >

(2) 新しい観光スタイルに対応した取組の推進

- 宿泊事業者が行うサービス向上（受入環境の充実）の取組の支援
 < R 5 ~ R 7 補助実績 1 1 8 件 >

- 宿泊キャンペーンにおける平日宿泊の促進

(3) 地域の観光を牽引する人材の育成

- 人材育成塾「観光みやぎ創生塾」の実施
 < R 5 ~ R 7 修了生 1 0 9 名（基礎コース 8 0 名、実践コース 2 9 名） >

- 観光ガイドの育成・連携 < R 5 ~ R 7 研修会 3 回開催 >

- 観光産業の人材確保の取組の支援
 - ・ 採用活動の支援、就職面談会・インターンシップ
 < R 5 ~ R 7 採用実績 6 6 人 >

(4) DMO等による魅力ある観光地域づくりの推進

- 外部専門人材の配置
 市町村や観光関連団体との連携強化、観光マーケティング、情報発信

(5) 利便性と満足度向上のための基盤整備

- ユニバーサルツーリズムの推進
 - ・ 宿泊施設や観光施設のユニバーサルデザイン化の支援
 < R 5 ~ R 7 補助実績 1 9 件 >
 - ・ 「みやぎユニバーサルツーリズムセンター」による相談対応・情報発信
 - ・ 空港でのベビーカー・車椅子のレンタル

- 多言語コールセンターによる観光施設等の言語サポート
 < 対応言語数 2 2 言語、施設登録数 2 3 1 施設 >

- 県公式観光サイト「みやぎ観光ナビ」の充実
 全面リニューアル、多言語対応の A I チャット導入等を実施

- 九州 M a a S の活用促進
 デジタルチケットの造成、販売プロモーション

- キャンプ・合宿等のワンストップ窓口「ひなたスポーツ観光ステーション」の設置（R 6. 9 月～）

プロジェクト2：みやざきの強みを生かした誘客の促進

(1) 本県ならではのテーマ観光の推進

- 神話を生かした「キキタビ」、自然を生かした癒やしをテーマとした「デトックス・トリップ宮崎」、インフラツーリズムの展開
- 「推し活」をフックとした周遊企画や動画配信等のプロモーション
- メタバース空間「バーチャルみやざき」を活用したプロモーション
観光地の再現、空間内でのPRイベント

(2) 世界ブランド等を生かした観光の推進

- 令和8年度「日本遺産フェスティバル」の県内での開催決定
- ユネスコ無形文化遺産への「神楽」の提案決定

(3) みやざきMICEの推進

- MICEの主催者等に対し、開催の一部を補助
＜R5～R7 補助件数146件＞
- 大型MICE（延べ宿泊者数1万人以上）の受入れ
- 「MICE推進戦略」（ガイドライン）を作成し、MICE誘致に係るビジョンを関係者と共有

(4) 教育旅行の誘致・定着促進

- 本県の豊かな自然等を活用した教育旅行プログラムの実施
農業体験やマリンスポーツ体験、インフラ施設見学等
- 国内外での教育旅行関係者の招聘及び教育プログラム等の体験
関東や関西地区、国外では台湾の学校を招請
- 誘致活動の推進
関西エリアの旅行会社担当者等にオンライン説明会、招請ツアーを実施

(5) 観光関連事業者との連携による取組の推進

- 宮崎大好きポケモン「ナッシー」を活用した誘客
交通事業者とタイアップした誘客施策や、県内の道の駅やインフラ施設を
巡るデジタルスタンプラリーなどを実施
- 2025年大阪・関西万博への出展
九州7県合同で催事出展し、本県ブースにて魅力を発信
- 新宿及び博多の「みやざき館KONNE」等において、PRイベントを実施

(6) 広域連携による取組の推進

- 南九州広域観光ルート連絡協議会
周遊施策や教育旅行誘致施策の実施
- 東九州広域観光推進協議会
東九州自動車道PAでのPRブース出展や相互誘客等のプロモーションを実施。

プロジェクト3：外国人観光客の誘致の強化・推進

(1) ニーズに対応した魅力の創出と情報発信

- 多言語ホームページの運営 < 4言語（英・韓・繁・簡） >
- 海外向けSNSを活用した情報発信
< 5言語（英・韓・繁・簡・タイ）、9媒体 >
- 海外OTA等と連携したデジタルプロモーション
< 韓国、台湾、香港、中国、ASEAN（シンガポール・タイ） >
- 九州観光機構や南九州3県、北部九州5県でのインバウンド向けプロモーションの実施

(2) 東アジアを重点地域とした誘客・リピーターの拡大

- 旅行博への出展や旅行会社・インフルエンサー等の招へい
- 本県発着、隣県等発着の国際定期便・チャーター便を活用した旅行商品造成の支援
- 韓国及び台湾向けのゴルフ旅行商品造成に係るセールス、FAMツアーの実施

(3) 欧米豪や富裕層など新規市場の開拓

- 東京都や九州各県等と連携した欧米豪向け誘客プロモーション
- アドベンチャーツーリズムや酒蔵ツーリズム（焼酎）等の本県ならではのテーマ型観光商品の造成・販売促進

(4) クルーズ船の誘致・推進

- クルーズ商談会や見本市への出展、クルーズ会社等キーパーソンの招聘、現地旅行会社等へのセールス
- 地元市町村や関係機関と連携した寄港時のおもてなし対応
- 油津港におけるファーストポート受入体制の確保
令和6年3月にファーストポートでの初の受入れ
- 宮崎港への外国クルーズ船初寄港
船会社及び旅行会社と連携し、寄港地ツアーの造成

プロジェクト4：「スポーツランドみやざき」の推進

(1) 国際水準のスポーツの聖地としてのブランド力の向上

- 屋外型トレーニングセンターにおける国内外代表チームやプロチームのキャンプ・合宿受入れ
【R6年度実績】
延べ利用者：27,363人（県内14,164人、県外13,084人、海外115人）>

<国内外代表・プロチームキャンプ・等合宿：10件>
日本代表（ラグビー1件、デフ陸上競技1件、パラトライアスロン1件、陸上長距離1件）、ラグビーリーグワン4件、Jリーグ2件
- 国内外代表合宿等の受入れ
【R6年度実績】延べ9チーム
・国内外代表合宿
（ラグビー日本代表、侍ジャパン、陸上長距離日本代表候補など）
・国外代表視察（ドイツ陸上競技）
- プロチームキャンプの受入れ
【R6年度実績】
プロ野球：8球団、ラグビーリーグワン：7チーム、Jリーグ：16チーム
- 国スポ・障スポに向けて整備する施設へのキャンプ・大会等の誘致を目的とした競技別誘致部会の設置（R6年度～）
- ひむかスタジアムのプロ仕様化（両翼拡張等）を含む県総合運動公園の施設改修（R6年度～）
- 屋外型トレーニングセンターの機能強化（R7年度）
- 木崎浜海岸のサーフィン環境整備（R7年度～）

(2) スポーツキャンプ・合宿及びスポーツイベントの全県化・通年化・多種目化の推進

- 市町村スポーツ施設等整備強化事業による全県下でのキャンプ等のための受入施設や宿泊施設（合宿等）の整備促進
【R6年度実績】 資機材整備：8市町、合宿所等整備3市村
- アマチュアスポーツ合宿支援事業の実施
【R6年度補助実績】4,053万円（832件）
- スポーツイベント開催支援事業の実施
【R6年度補助実績】1,200万円（83件）

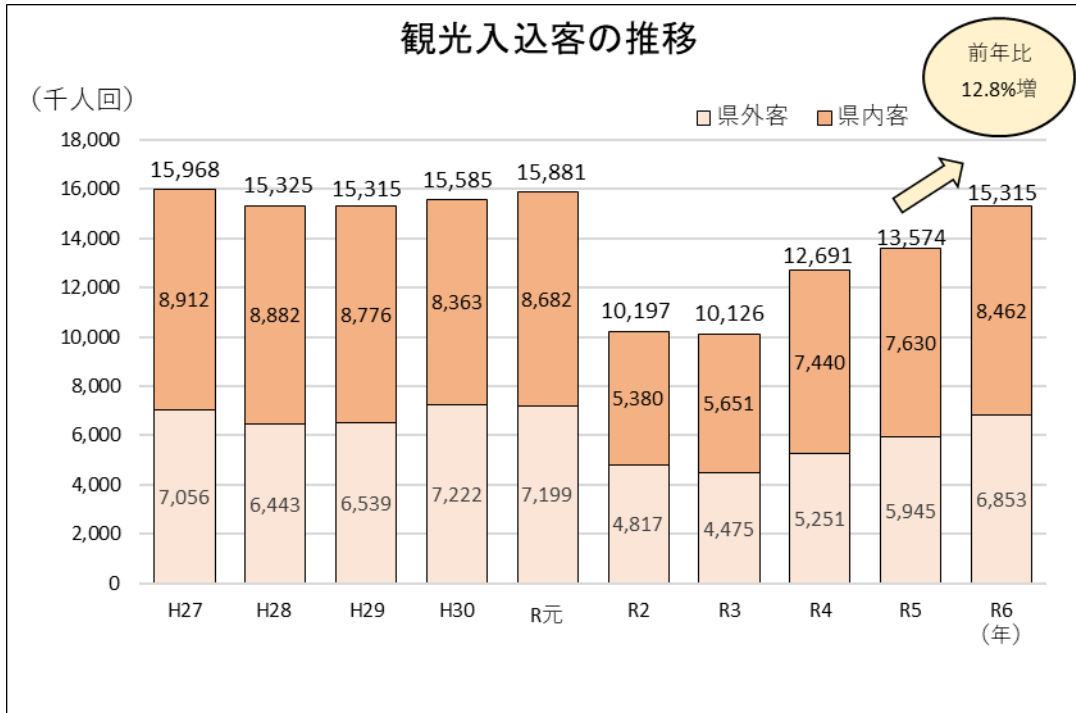
(3) スポーツツーリズムの推進

- プロ野球やJリーグキャンプ地のPRと合わせた観光地への誘導の充実・強化
・ 春季プロスポーツキャンプガイドマップの作成
・ 県観光サイト「旬ナビ」や宮崎市観光協会ホームページでのキャンプ特設サイト等の開設

- 武道ツーリズムによるインバウンド観光のコンテンツ作成
 - ・ 武道体験コンテンツと併せた、茶道体験・滝行体験等の日本文化や宮崎の自然環境を感じられるコンテンツの造成、予約システムの開発、PR動画やパンフレットの作成
- 航空会社やスポーツ専門雑誌、メディア等と連携したPR強化、大規模国際大会に訪れる国内外メディア等を通じた情報発信の強化
 - ・ 2019年ISAワールドサーフィンゲームスでのメディアでのPR効果
(約84億円うち国内：約46億円 海外：約38億円)

1 観光入込客数の推移

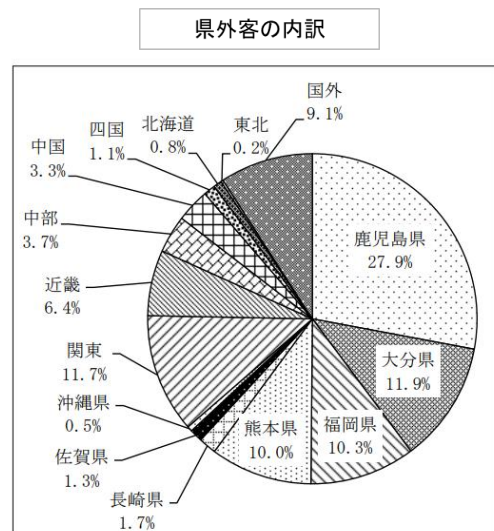
- ・ 観光入込客数は、コロナ禍の影響により令和2年は大きく減少したものの、その後は回復傾向にあり、令和6年は前年比12.8%増の約1,530万人回となっている。
- ・ 観光入込客のうち、県外客は全体の約半数程度



資料：宮崎県観光入込客統計調査

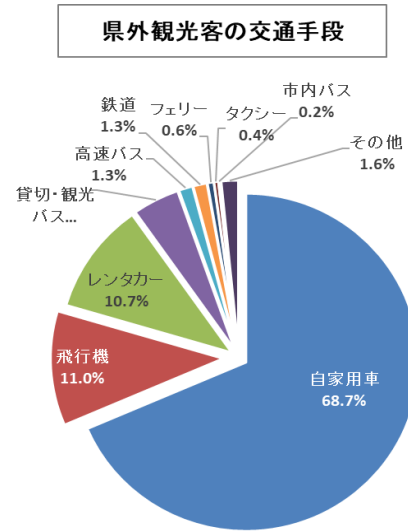
- ・ 県外客のうち約6割は九州内からの観光客である。

	回答数	割合
鹿児島県	514	27.9
大分県	218	11.9
福岡県	190	10.3
熊本県	184	10.0
長崎県	32	1.7
佐賀県	23	1.3
沖縄県	9	0.5
関東	215	11.7
近畿	118	6.4
中部	68	3.7
中国	60	3.3
四国	21	1.1
北海道	15	0.8
東北	4	0.2
国外	168	9.1
合計	1,839	100.0



資料：令和6年 宮崎県観光入込客統計調査

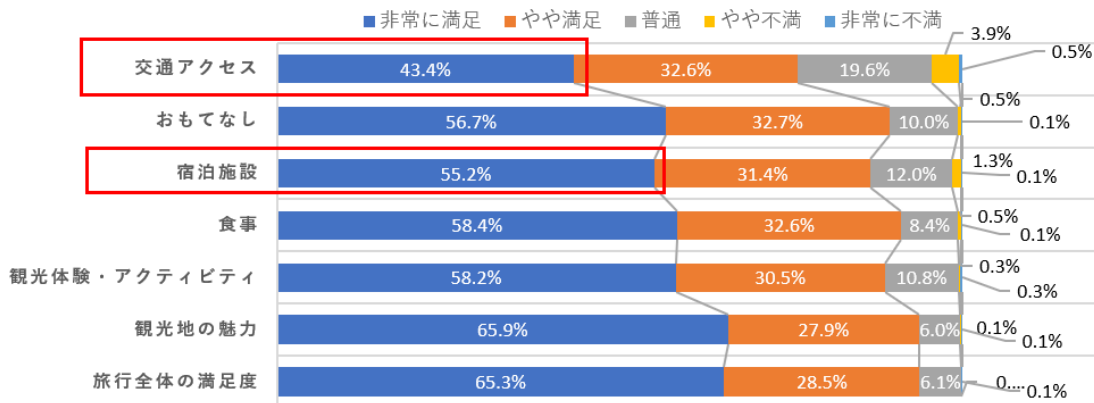
- ・ 県外客が本県に入る交通手段は自家用車とレンタカーの割合が高く、県外客の7割以上が車を交通手段として利用している。
- ・ 公共交通機関を利用している県外客の割合は低い。



資料：令和6年 宮崎県観光入込客統計調査

- ・ 県外客の旅行の満足度は全体的に高いが、交通アクセスと宿泊施設については他の項目よりも低くなっている。

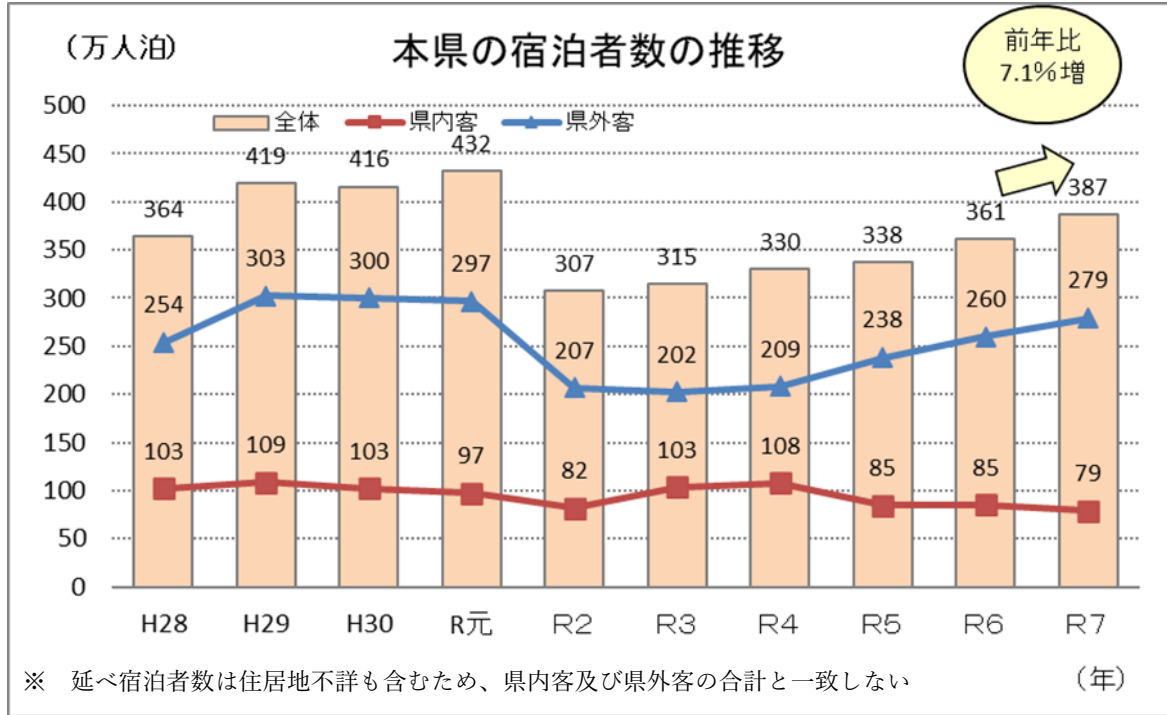
県外観光客の旅行満足度



資料：令和6年 宮崎県観光入込客統計調査

2 宿泊者数の推移

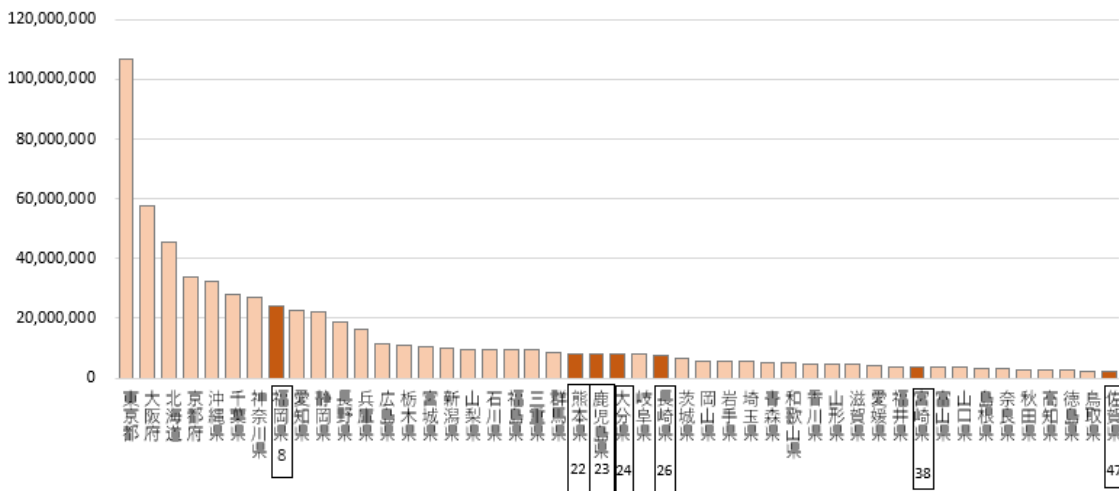
- ・ 宿泊者数は、コロナ禍の影響により令和2年は大きく減少したものの、その後は回復傾向にあり、令和7年速報値では前年比7.1%増の約387万人泊となっている。
- ・ 宿泊者の内訳は、県内客よりも県外客の割合が高い。



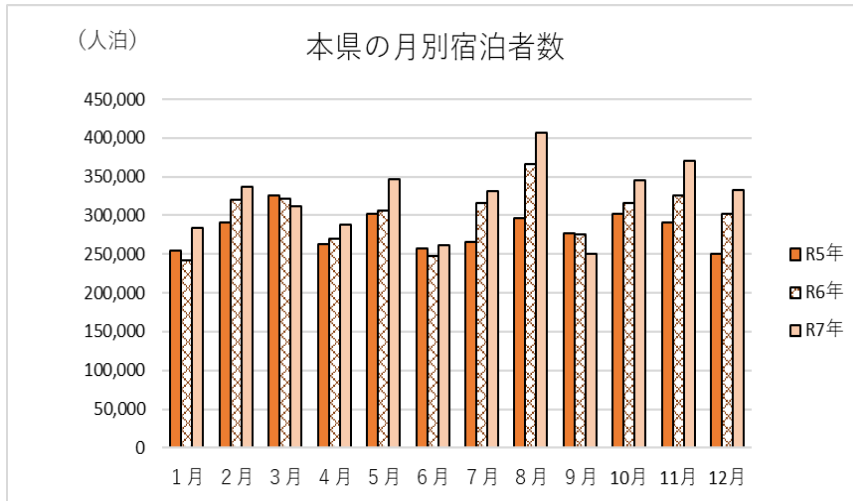
資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」

- ・ 本県の宿泊者数は全国の中では相対的に低い位置にあり、九州7県の中では、2番目に少ない。

全国の宿泊者数比較 (令和7年速報値)

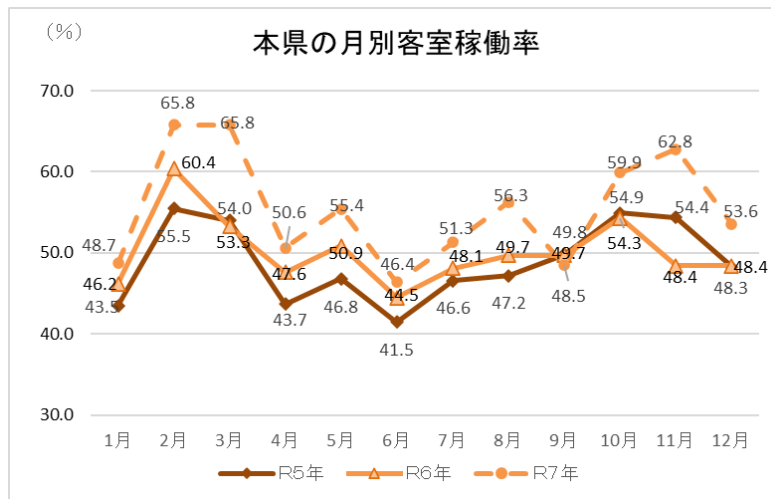


資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」



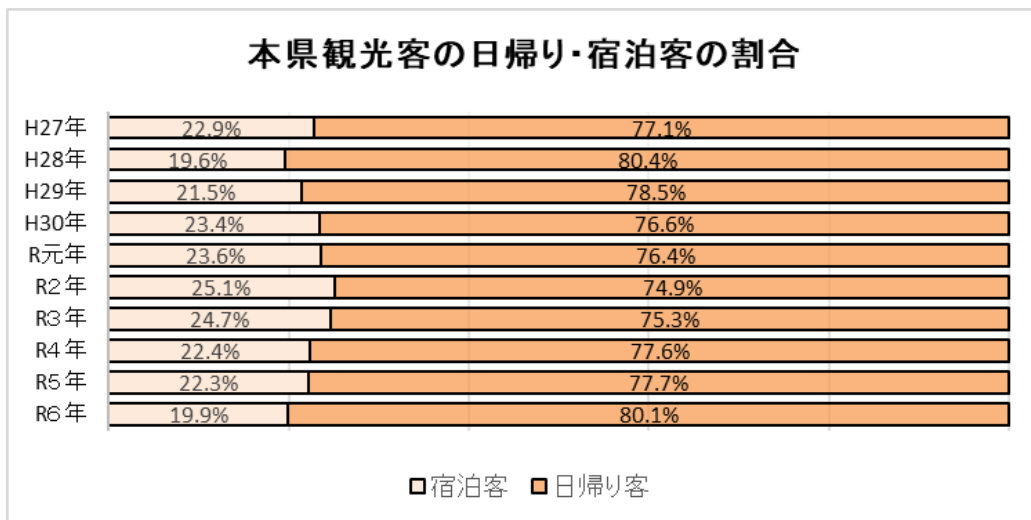
※令和7年は速報値
資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」

- 本県の客室稼働率は、2月のスポーツキャンプ、11月のゴルフシーズンが高い傾向にある。



※令和7年は速報値
資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」

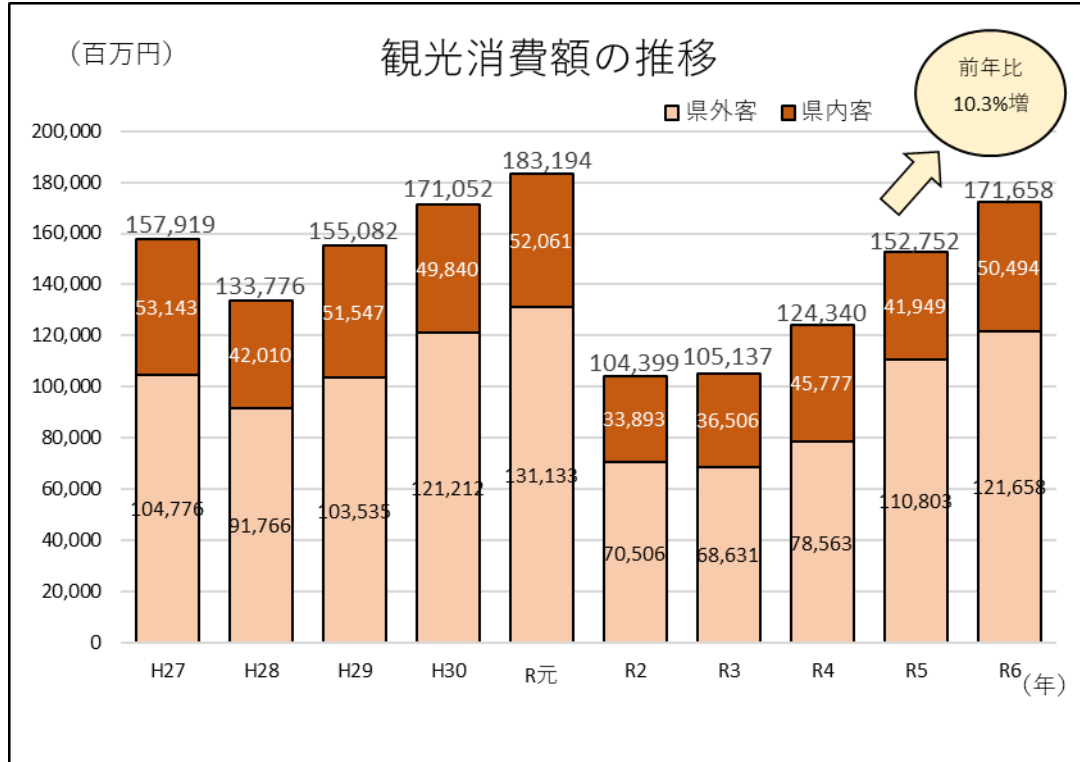
- 本県の観光入込客数に占める宿泊客の割合は3割未満であり、多くは日帰り観光客である。



資料:宮崎県観光入込客統計調査

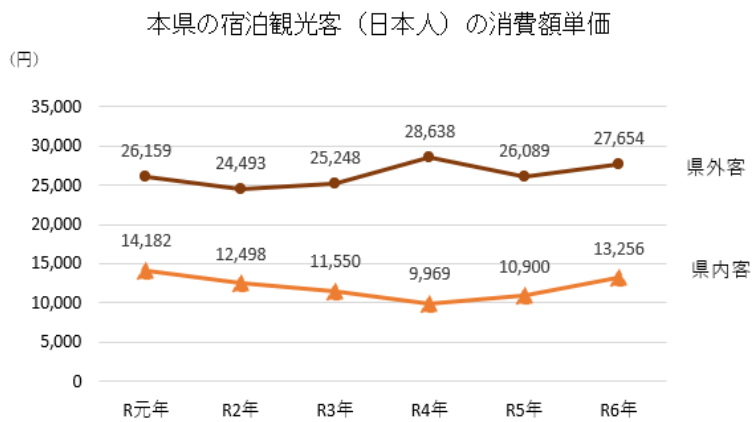
3 観光消費額の推移

- 観光消費額は、コロナ禍の影響により令和2年は大きく減少したものの、その後は回復傾向にあり、令和6年には、前年比10.3%増の約1,717億円となっている。



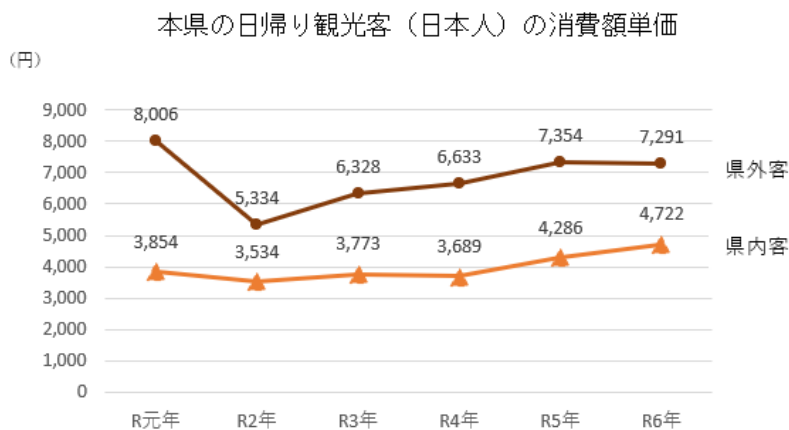
資料：宮崎県観光入込客統計調査

- ・ 本県の宿泊観光客（日本人）の消費額単価は横ばいであり、県内客よりも県外客のほうが消費額単価が高い。



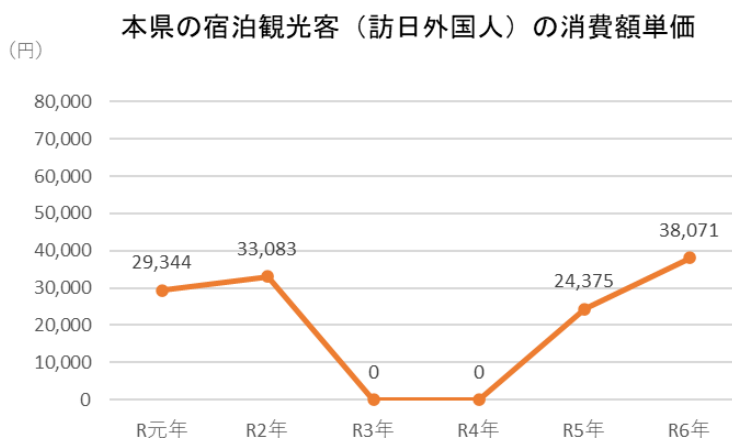
資料：宮崎県観光入込客統計調査

- ・ 本県の日帰り観光客（日本人）の消費額単価は県内客よりも県外客のほうが高い。



資料：宮崎県観光入込客統計調査

- ・ 本県の宿泊観光客（訪日外国人）の消費額単価は、日本人観光客よりも高い水準で推移している。

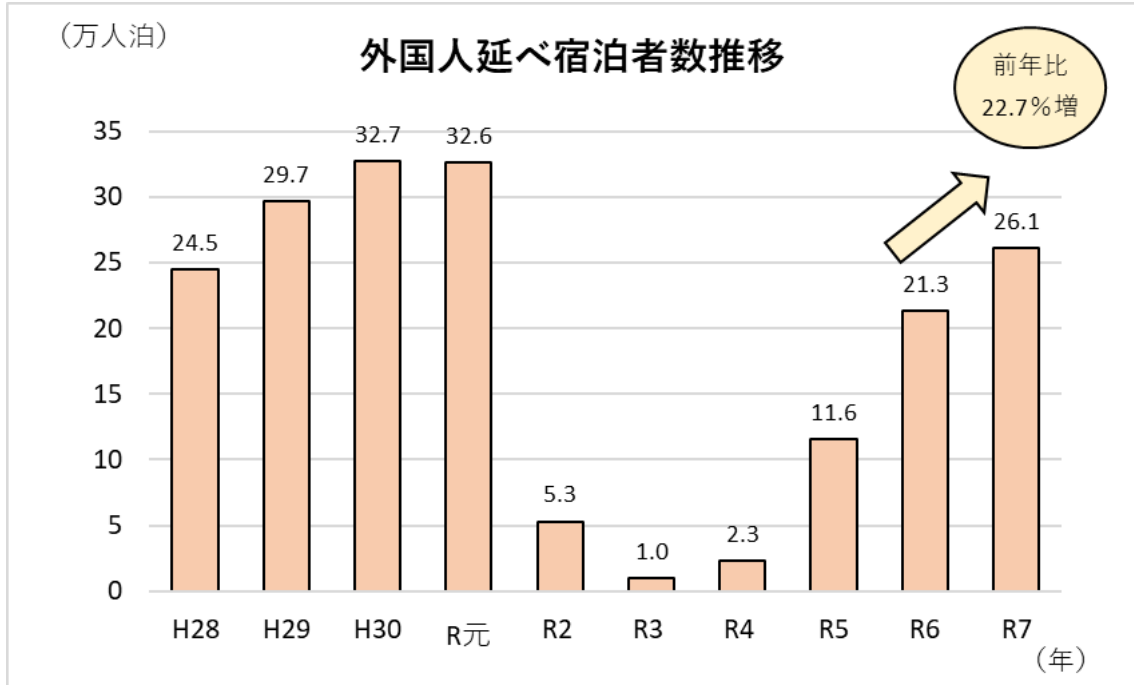


資料：宮崎県観光入込客統計調査

※ 訪日外国人の観光客消費額単価については、観光消費額単価の推計根拠となる「訪日外国人消費動向調査(地域調査)」が実施されておらず、算出できないことから0の表記となっている。

4 訪日外国人観光客の推移

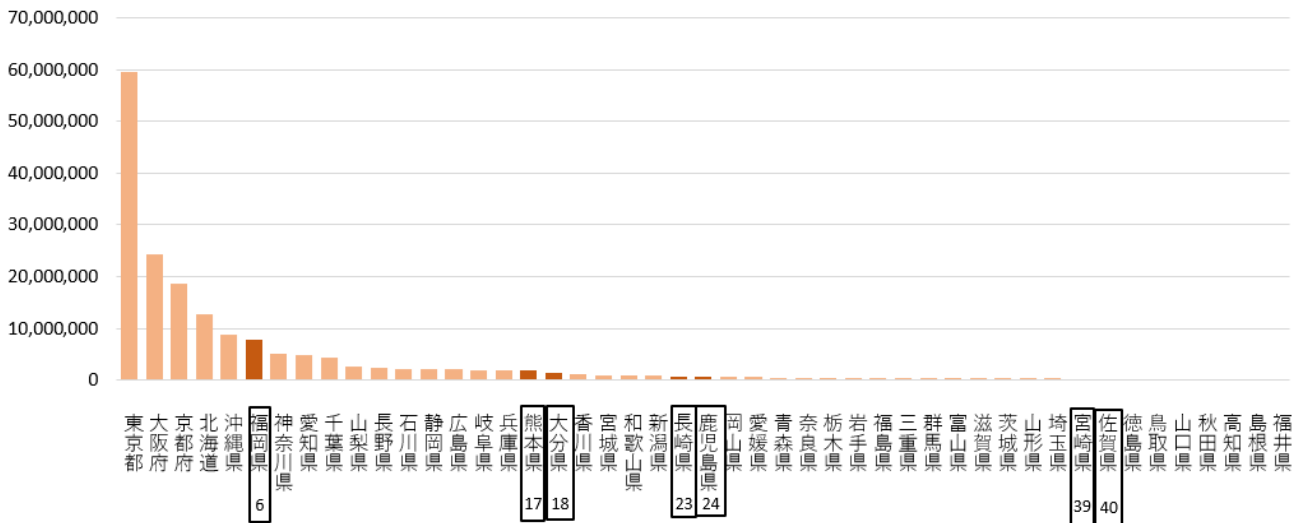
- 外国人の延べ宿泊者数は、コロナ禍の影響により令和2年は大きく減少したが、その後は回復傾向にあり、令和7年は前年比22.7%増の約26.1万人泊となっている。



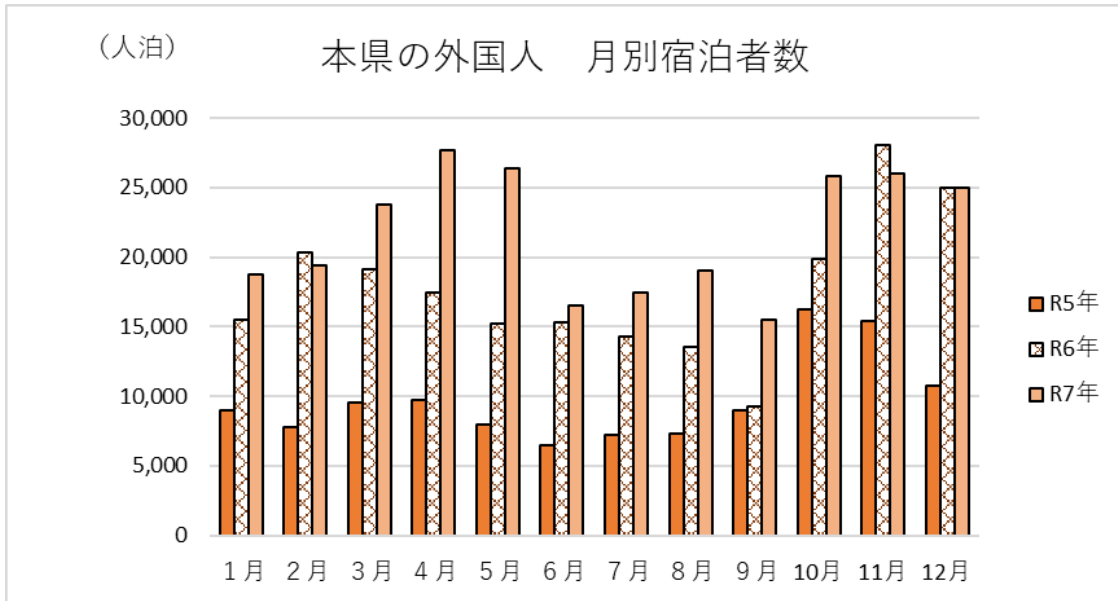
資料: 観光庁「宿泊旅行統計調査」

- 本県の外国人延べ宿泊者数は全国の中では相対的に低い位置にあり、九州7県の中では、2番目に少ない。

全国の外国人延べ宿泊者数比較 (令和7年速報値)

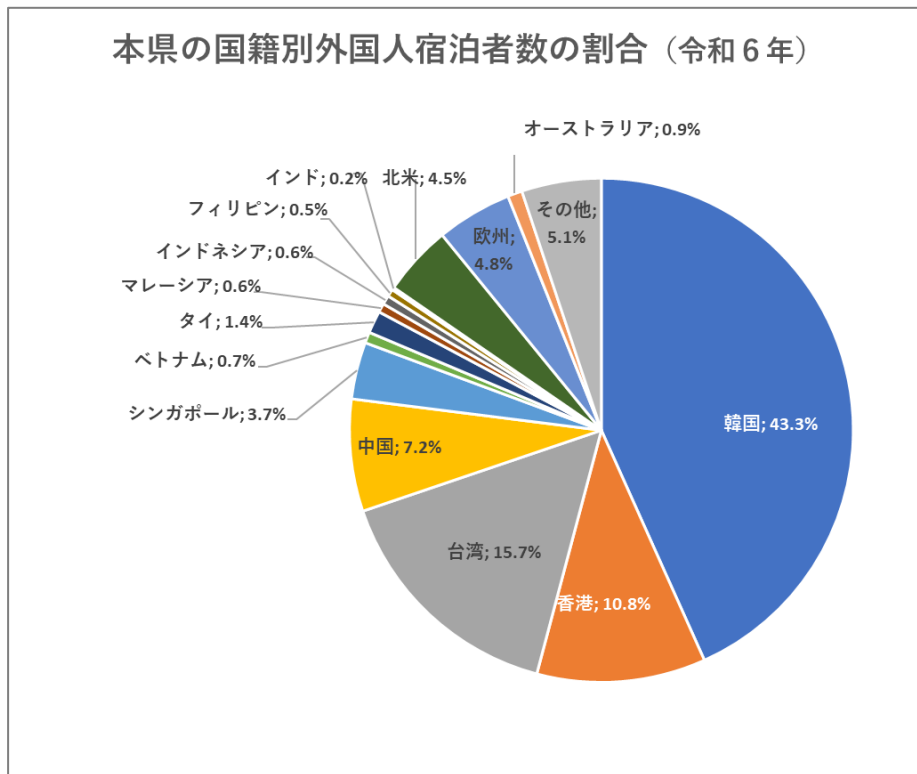


資料: 観光庁「宿泊旅行統計調査」



資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」

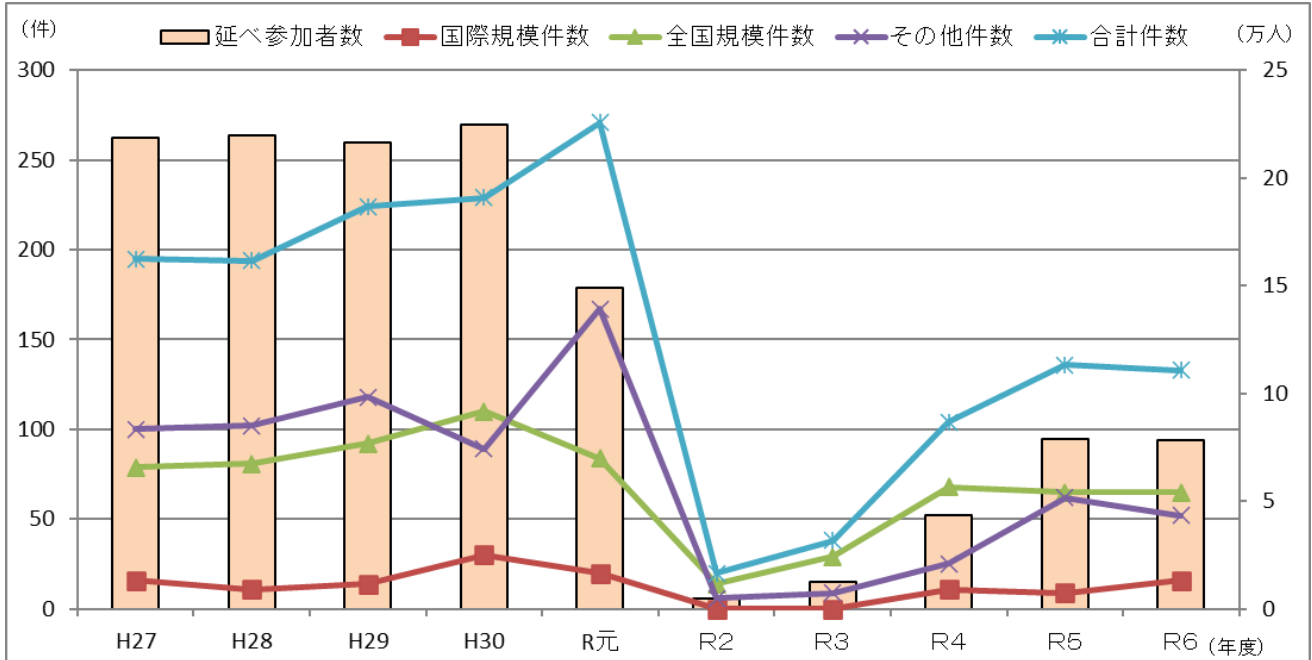
- 本県の訪日外国人宿泊者の国籍は、韓国が最も多く、香港、台湾、中国とアジアの割合が高い。



資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」

5 コンベンション実績

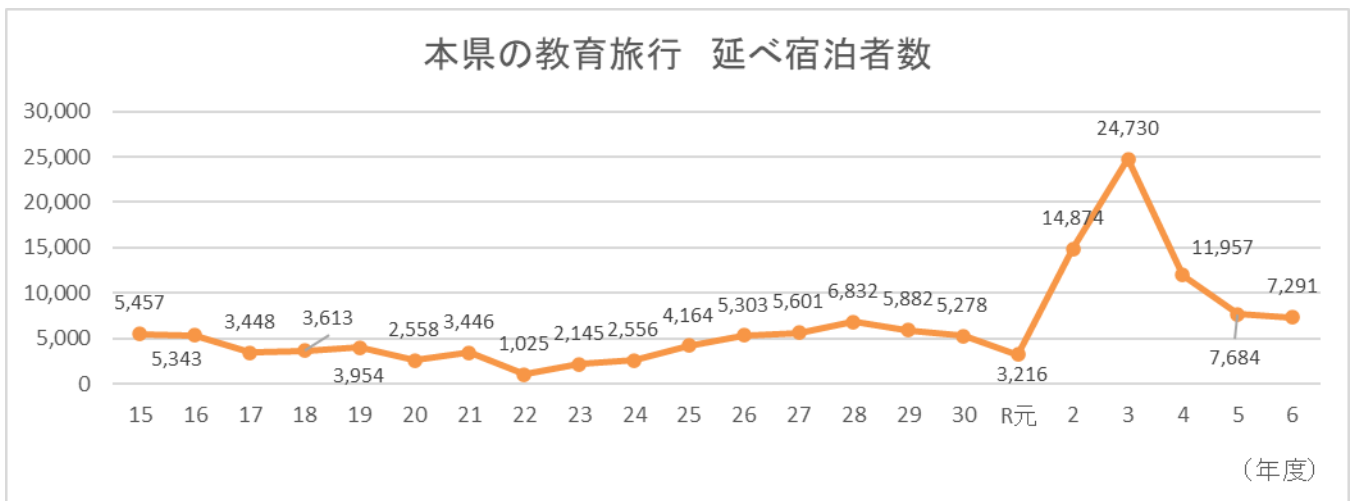
- ・ 大人数での誘客が見込めるコンベンションは、令和2年度はコロナ禍の影響で延べ参加者数、コンベンション件数とも激減したが、その後令和6年にかけて回復しつつある。



資料：宮崎県観光推進課調べ

6 教育旅行受入状況の推移

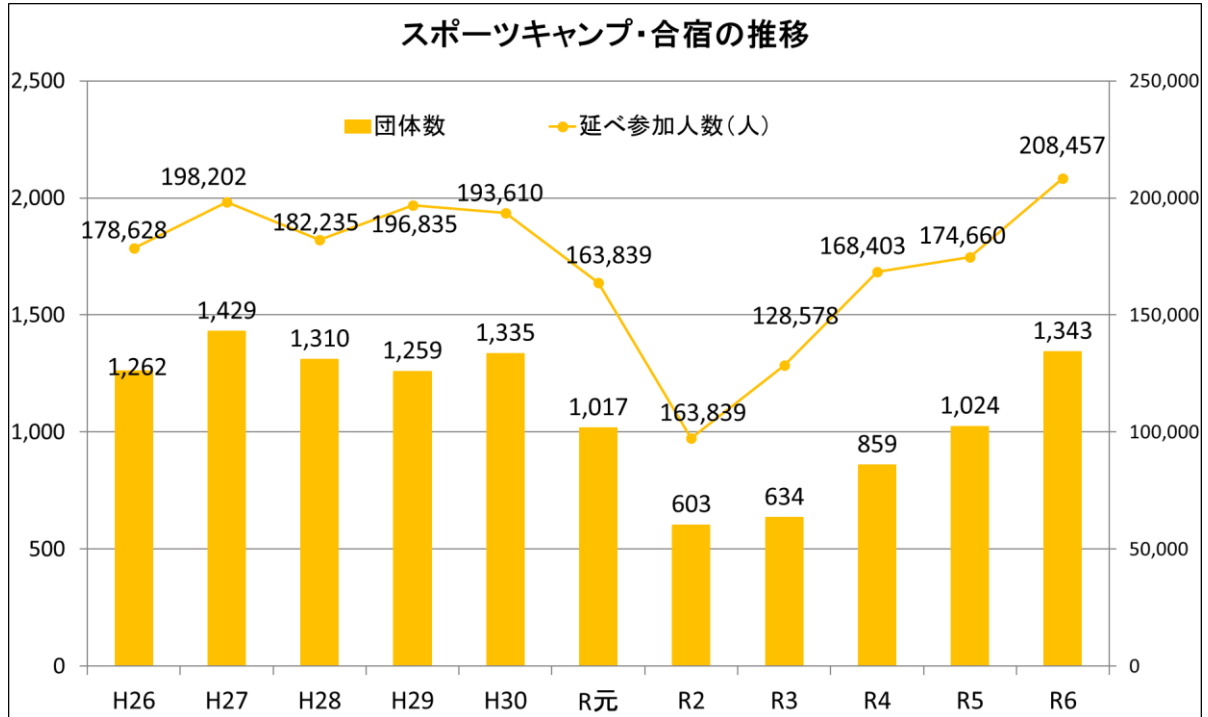
- ・ 本県の教育旅行は、近年は横ばい傾向であったが、コロナ禍の影響で、県外への修学旅行等が自粛された影響で、コロナ禍の令和3年は県内での宿泊者数が大幅に増加した。



資料：宮崎県観光推進課調べ

7 スポーツキャンプ・合宿の実績の推移

・ コロナ禍の影響により、令和2年度のスポーツキャンプ団体数、延べ参加者数とも大きく減少したが、令和6年は団体数、延べ参加人数の両方で前年度を上回った。



資料：宮崎県観光推進課調べ

令和8年春季プロスポーツキャンプ実績（令和8年1～3月）

●プロ野球 8球団

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| ① 読売巨人軍（宮崎市、都城市） | ⑤ オリックス・バファローズ（宮崎市） |
| ② 福岡ソフトバンクホークス（宮崎市） | ⑥ 東京ヤクルトスワローズ（ファーム）（西都市） |
| ③ 埼玉西武ライオンズ（日南市） | ⑦ 東北楽天ゴールデンイーグルス（ファーム）（日向市） |
| ④ 広島東洋カープ（日南市） | ⑧ 千葉ロッテマリーンズ（都城市） |

●Jリーグ 15チーム

○ J1（7チーム）

- | | |
|------------------|-----------------|
| ① 鹿島アントラーズ（宮崎市） | ⑤ ファジアーノ岡山（宮崎市） |
| ② サンフレッチェ広島（宮崎市） | ⑥ 横浜F・マリノス（宮崎市） |
| ③ セレッソ大阪（宮崎市） | ⑦ 東京ヴェルディ（都城市） |
| ④ アビスパ福岡（宮崎市） | |

○ J2（5チーム）

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ① 横浜FC（日南市） | ④ ベガルタ仙台（延岡市、宮崎市） |
| ② アルビレックス新潟（西都市、都城市） | ⑤ 大分トリニータ（宮崎市） |
| ③ 徳島ヴォルティス（宮崎市） | |

○ J3（3チーム）

- | |
|-----------------|
| ① ツエーゲン金沢（宮崎市） |
| ② FC岐阜（西都市、宮崎市） |
| ③ ザスパ群馬（綾町） |